

中学校 外国語（英語）科 学習指導案

●●立●●中学校

指導者 ●● ●●

1. 日時 令和●年●月●日（●）第●限

2. 場所 第●学年●組教室

3. 学年・組 第2学年●組（●名）

4. 単元名 Unit 7 Amazing Australia

（使用教科書：光村図書「Here We Go! ENGLISH COURSE②」）

5. 単元の目標

日本のことをもっと知りたいと思っている ALT のために、自分のおすすめる日本の各都道府県の有名な観光地や特産物などについて調べ、紹介文を書くことができる。

【書くこと】

6. 教材観

本校の CAN-DO リストにおける2年生のゴールは「自分の町や日本文化などについて、内容を整理して伝え合うことができる」である。

本単元は、オーストラリアの観光紹介の記事を読んで、名所や特色などを読み取ったり、町の名所や名物などを伝える紹介文を書いたりする内容を学ぶ。このような単元の内容を踏まえて、休日にむけて「ALT が一日楽しく過ごせる観光プラン」を紹介する記事を、生徒たちに書かせることにした。

生徒たちは、オーストラリアの人口や名所を学びながら、自分たちがすすめる場所やその場所での快適な過ごし方を発信する。改めて自分の地域や日本の良さについて情報や自分の考えなどを発信していくことができる教材である。

また、小学校5年生でも同じような内容を扱っている。小中連携を指導内容の視点からつなげていくことも重視したい。

7. 生徒観（※省略）

8. 指導観

本単元を中心となる言語活動に「リアルさ」と「必然性」のある目的や場面、状況等の設定を行う。今回は、以下の①～⑤のように設定している。

①コミュニケーションを図る相手は ALT である。

②ALT とやり取りによるパフォーマンスの時間を確保することが今回は難しい。

③代わりに、「Best 35 Booklet by Class 2-● ver.」を作成して ALT に読んでもらう。

④その冊子から、1つのプランを実際に選んでもらい、実際に行ってもらう。

⑤後日その状況などを報告してもらう。

架空の人物ではない ALT を対象にし、実際にそのプランを実行してもらうという「リアルさ」と、今回はやり取りが時間の関係で直接生徒とやり取りができないので冊子に

する、という「必然性」をこのように具現化させた。

教科書では、オーストラリアについて、いくつかの情報が紹介される。この内容を踏まえて、日本と比較させながら授業を展開する。

本単元での文法事項は比較表現である。パタンプラクティスや教師による説明も大切ではあるが、これらを中心に授業をするのではないことに留意する。あくまでも中心は、英語での「やり取り」が中心である。

小中接続の視点では、5年生時に行った「おすすめの外国プランを紹介する」という言語活動を、単元の導入として、活用する。具体的には、当時の教科書を使って授業者がモデルとなる発表をしたり、生徒たちが当時の内容を想起できる範囲で紹介したりしていく。このように小学校で学んだ内容を、中学校でも効果的に活用していくことで、「学びの連続性」を維持させていく。

9. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書くこと	【知識】 比較表現の特徴やきまりに関する事項を理解している。 【技能】 日本の各都道府県の有名な観光地や特産物などについて、比較表現を用いて書く技能を身に付けている。	日本のことをもっと知りたいと思っている ALT のために、自分のおすすめする日本の各都道府県の有名な観光地や特産物などについて、紹介文を書いている。	日本のことをもっと知りたいと思っている ALT のために、自分のおすすめする日本の各都道府県の有名な観光地や特産物などについて、紹介文を書こうとしている。

10. 判断基準（生徒の学習状況）

【知識・技能】

十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する生徒への支援
文章構造も適切で、ほとんど誤りがない正しい英文で紹介文を書いている。	多少の誤りが見受けられるが、読む際に、支障のない程度の英文で紹介文を書いている。	教科書の英文や、ALT が使った英語を活用させて、紹介文を書かせることで言語材料の定着を図る。

【思考・判断・表現】

十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する生徒への支援
日本のことをもっと知りたいと思っている ALT のために、自分のおすすめる日本の各都道府県の有名な観光地や特産物などについて、 <u>相手の興味・関心を高めるような紹介文</u> を書いている。	日本のことをもっと知りたいと思っている ALT のために、自分のおすすめる日本の各都道府県の有名な観光地や特産物などについて、紹介文を書いている。	指導者が使った英語をモデルにして、簡単な語句や文を用いることで、その生徒が紹介文を書きやすいようにする。

【主体的に学習に取り組む態度】

十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する生徒への支援
日本のことをもっと知りたいと思っている ALT のために、自分のおすすめる日本の各都道府県の有名な観光地や特産物などについて、 <u>相手の興味・関心を高めるような紹介文</u> を書こうとしている。	日本のことをもっと知りたいと思っている ALT のために、自分のおすすめる日本の各都道府県の有名な観光地や特産物などについて、紹介文を書こうとしている。	教科書の中の英文を使って紹介文を書くようにアドバイスしたり、クラスメイトの考えも参考にさせたりして紹介文を書きやすいようにする。

11. 単元の指導と評価の計画（全 13 時間・【本時】は 2 時間目）

時	● 目標	評価方法等
第 1 時	● オーストラリアに関する情報を聞いて概要を捉えるとともに、本単元の目標について見通しを持つことができる。	「記録に残す評価」は行わない。ねらいに則して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。
第 2 時 【本時】	● 自分がおすすめる場所の大きさや広さについての情報を書くことができる。	
第 3 時	● 自分がおすすめる場所で人気のあるスポットや食べ物についての情報を書くことができる。	
第 4 時	● 自分がおすすめる場所の特色や、その場所を買うことができるお土産などについての情報を書くことができる。	
第 5 時	● 自分がおすすめる場所について、今まで書いてきた情報をまとめることができる。	
第 6 時	● オーストラリアについての紹介文を題材にして、文の構成を分析することができる。	
第 7 時	● 文の構成を意識して、自分が書いた紹介文をより相手に理解しやすいように書き直す。	
第 8 時	● 自分がおすすめる場所の特色について、簡単な紹介文を書くことができる	
第 9 時	● 北海道と福井県についての観光案内に関する内容について概要を捉えたり、自分が紹介文を書くにあたって、効果的な表現などを見つけたりことができる。	
第 10 時	● 山梨県、岐阜県、長野県、愛知県を紹介する内容から、自分が紹介文を書くにあたって、効果的な表現などを見つけたりすることができる。	
第 11 時	● 今まで学習したことを踏まえて、情報を整理しながら自分がおすすめる場所の紹介文を書くことができる。	
第 12 時	● 自分が書いた紹介文をクラスメイトで読み合い、よりよい紹介文にすることができる。	【知】【思】 【主】
第 13 時	● お互いの紹介文を読み、やりとりをすることができる。 ※ 後日 ALT に冊子を渡し、実際に観光するプランを決めてもらい、観光後にはクラスに報告してもらい、生徒たちとやり取りを行う予定になっている。	
後日	● パフォーマンステスト（書くこと）	【知】

12. 本時の学習

(1) 本時の目標

- 自分がおすすめる場所の大きさや広さについての情報を書くことができる。

(2) 本時の展開

時間	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価規準 (方法)
1 0 分	・あいさつをする。 ・ペアでチャットをする。 ・レポーティングをする。 ・Unit 7 の単語シートを使ってペアで確認しあう。 ・Unit 7 の本文全体を聞き、概要を理解する。(3回目)	■ 全体に向けてあいさつをする。 ■ 数名の生徒を指名して簡単なやりとりをする。 ■ ペアでやりとりをさせる。トピックは指導者が提示するのではなく、自分たちで考えさせる。 ■ やり取りした内容を英語で書かせて、お互いの英文が正しいかどうか確認する。ただし、「グローバルエラー」に着目させる。 ※「意味が取れないような誤り」のこと ■ 英文を数組のペアに発表させ、指導者が「①内容面」と「②言語面」の2点についてフィードバックする。 ■ 新出単語に慣れ親しませながら、英語の学習に向かう気持ちを整えさせていく。 ■ 聞き取れた内容についてペアでやり取りさせ、数名発表させる。状況によって日本語と英語を使い分けさせる。指導者は、そのコメントについてフィードバックする。ここでは理解できない部分も多いと考えられるが、あまり気にせず理解できた部分を賞賛していく。 ■ 定期テストや入試における読解に向けて、生徒が本文全体を聞く程度の粘り強さを継続的に付けていく必要があることに、指導者が適宜触れていくようにする。	

3 5 分	・単元の目標を基に、本時の目標や「振り返り」の内容を共有する。	■ CAN-DO リストを実際に使って、確認させる。 ■ 単元全体の目標を踏まえて、自分たちの言葉で説明しあわせる。 ■ 本時の目標が自分たちにとってどのような意味があるか、自身の目標とどのようにすり合わせるかなどを話し合わせる。 今日の目標「自分がおすすめる場所の大きさや広さについての情報を書くこと」について以下の項目を1つ選んで、具体的に書きましょう。 ① 「前回の振り返りで書いた見通し」を踏まえた考察、及び次回に向けた見通し（※毎時間共通） ② 教科書本文から自分なりに活用できると気づいたきかけ ③ 英語を書いていく過程で気づいたこと、考えが変わったこととその理由	
	・Teacher's Talk を聞きながら、指導者の質問に答えたり、生徒同士で簡単にやりとりしたりする。 ・今日の人口が少なくなっている話題から、世界の人口や大阪府の人口など、グラフを扱いながらやり取りをする。 ・Teacher's Talk の内容を生徒たちに確認させる。 ・比較表現に関する文法事項を明示的に理解する。 ・人口に関するグラフを載せた資料を配付し、そのグラフから分かることについてペアでやりとりする。	■ 指導者が話す内容には、本単元で初出の文法事項（比較表現）が必然的に出てくる。比較表現を使っている時には、少し大きな声でゆっくりと、数回繰り返しながら生徒に伝えることで、生徒に文法事項の気づきを促す。 ■ 生徒にやり取りをさせる時には、比較表現を含む内容をできるだけ言わせるように心がける。ここでは、文法の説明などはしない。 ■ まずは内容の理解を意識させ、次に、言語的な側面に着目させる。「英語の学習≠文法の学習」であることを指導者が意識する。 ■ 教科書に書かれている文法事項の説明を生徒に読ませて理解させる程度にとどめる。 ■ 表やグラフを読み取る力を養う練習という位置づけとしている。個人差があってよい。可能であれば自分の感想や意見も付け足すことも促す。	

	T-S の会話を聞いて、どういう表現が使われているのか聞き取る。 ・自分のおすすめする場所の人口について英語で表現するために、グループでブレインストーミングする。 ・自分のおすすめする場所の人口について相手に効果的に伝えるためのヒントを見つけるために、教科書本文を読む。 ・ICT を活用して、適宜クラスメイトの表現を参考にしながら自分で書いていく。	■ やり取りを基に英文を書かせる。 - ICT を活用して、英文を共有しながら内容や言語面についての気づきを促す。 ■ タブレットで必要な情報を探させる。 ■ 「比較表現」の有用性に気付かせる。自分のおすすめする場所の人口だけを伝えても相手はイメージしにくい。相手に理解してもらうためには、どうすれば効果的かを考えさせ、「比較表現」に意識を向けさせる。 ■ オーストラリアの人口について紹介している内容が教科書に載っていることを生徒に伝える。どのような文の構成にしているのかを理解するために本文を読ませる。 ■ 机間指導を行い、「学び」が停滞しているようなグループに適宜支援する。 ■ 必ずしも「人口」についての内容にする必要はないことを伝える。ただ、話題が変わっていても、「伝える構造」は同じであることに気付かせておく。	
5分	・本時の目標の振り返りをする。 【再掲】今日の目標「自分がおすすめする場所の大きさや広さについての情報を書くこと」について以下の項目を1つ選んで、具体的に書きましょう。 ① 「前回の振り返りで書いた見通し」を踏まえた考察、及び次回に向けた見通し（※毎時間共通） ② 教科書本文から自分なりに活用できると気づいたきっかけ ③ 英語を書いていく過程で気づいたこと、考えが変わったこととその理由 ・クラスメイトの振り返りを共有する。	■ 生徒に振り返らせる内容については、具体的に指示をする。 ■ 何人かのコメントを紹介する。	(ワークシート)